

カナダの金融市場動向 Weekly Report

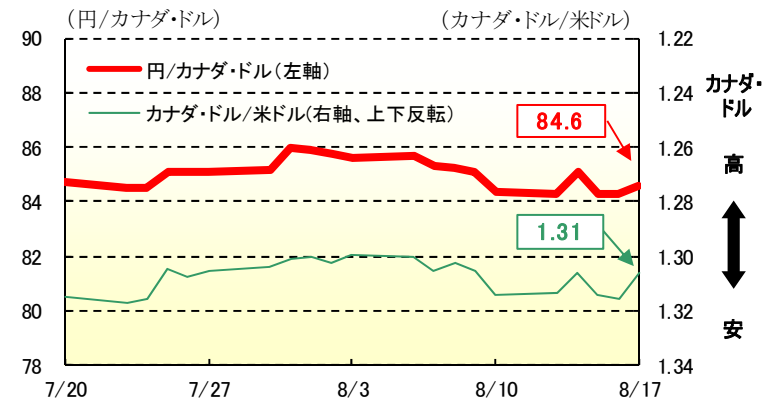
【2018年8月11日～2018年8月17日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は上昇しました。また、カナダ5年国債利回りはほぼ横ばいでした。

週の前半は、トルコの金融不安や対米関係悪化が懸念されたことで、市場でリスク回避の姿勢が強まり、国債金利は低下しました。週の後半は、発表された7月のCPI(消費者物価指数)が市場予想を上回ったことから、カナダ中央銀行の年内追加利上げの可能性が高まり、国債金利は低下幅を縮小し、カナダ・ドルは対米ドル・対円ともに上昇しました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年7月20日～2018年8月17日)



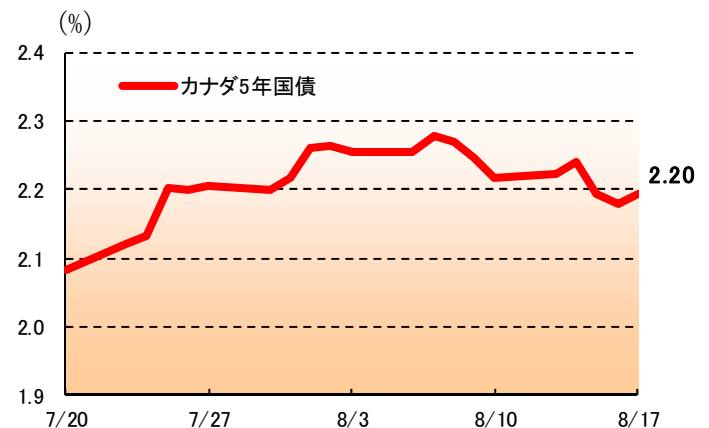
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週は、経済指標では6月の小売売上高などが発表される予定です。小売売上高は5月の大幅増の後、反動減が予想されます。

NAFTA(北米自由貿易協定)再交渉をめぐっては、米国とメキシコとの合意が近いと報じられる一方で、カナダは蚊帳の外に置かれています。また、米国が鉄鋼の関税を引き上げて以降、カナダへの鉄鋼輸出額が増加している状況に対し、トルドー政権が国内の鉄鋼生産者保護のためのセーフガード(緊急輸入制限)措置に関する協議を開始すると報じられています。引き続き通商問題に注目が集まります。

【カナダ 金利推移】 (2018年7月20日～2018年8月17日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>